

# 学校評価アンケート結果報告

平成 23 年 1 月  
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けています。更なる教育の環境整備と質的向上、ひいては教育成果の向上のために様々な取り組みを行ってきましたが、その成果を確認するとともに更なる改善に向けた課題形成を図る機会として、本年度2回目の学校評価アンケートを実施しました。

集計結果に分析を加え、学校改革・教育改善の進行状況をお伝えすべく本書面をまとめましたのでご高覧ください。今後益々のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

学校長 岡本 博

## 凡例と集計方法について

凡例: ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。今後も引き続き、保護者の皆様に十分にご判断をいただけるよう情報発信の充実<sup>1</sup>に努めてまいります。

回答留保は、前回に較べて全質問の平均で 5%、最大で 16%減少しました。積極的に取り組んだ情報開示の成果が現れつつあるようです。

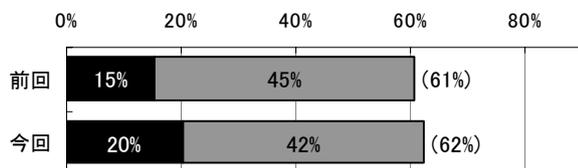
## 過半の項目で改善を達成

第1回に引き続き、保護者の皆様から 20 の質問にご回答を頂戴しました。得点化できる質問のうち過半数の項目で改善が図られています。

特に伸長が大きかったのは、「将来と結びつけた行動の選択」「異なる立場の相手の意見への傾聴」「進路指導の充実」の3つです。

一方、第1回の結果を受けて策定した改善策が期待ほどの効果を得ず、評価を下げてしまった項目もあります。引き続き、奢らず、迷わずに理想とする学校の実現に全教職員一丸となって取り組んでまいります。

Q 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。

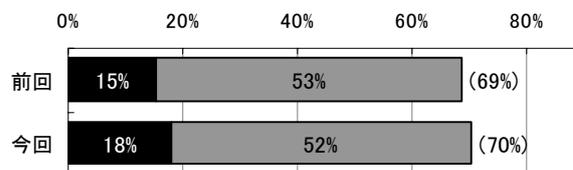


前回と比較して、「そう思う」という積極的な肯定が 5 ポイント増加しました。特に 3 年生では肯定的な回答が 75%に達し、3 ヶ年を見通した進路指導は一定の成果を挙げているものと考えます。教室で生徒の様子観察してみると、1 年生、2 年生についても昨秋実施の

「職業別ガイダンス」と「学部・学科別ガイダンス」を契機として、多くの生徒が将来への意識を高めたように見受けられます。

未来を拓く力は、学校が最も力を入れて教育に取り組んでいるものの一つです。今後も日頃の指導はもとより、生徒が自身の将来に向き合える機会として、キャリア進路関連の行事について充実を図ります。

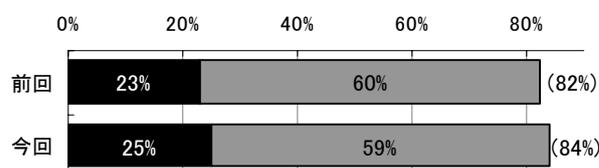
Q 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思われませんか。



進路指導については、「どちらかといえば」という但し書きのつかない肯定評価の割合が増えました。回答留保の割合が大きく減じたこともあり、全回答に占める肯定の割合は 1 年生で 24%→43%、2 年生で 37%→49%、3 年生で 61%→70%と、いずれも増加しました。

進路指導は、段階的に行われるものであり、指導を受けた期間が長くなるほどに、その価値や意義をご理解いただけるという側面もあります。今後も引き続き、進路指導計画に関する説明に一層注力し、在校生、保護者の皆様とともに、進路希望の形成と実現に向けた協働を強化していきたいと思えます。

Q 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳を傾けるようになりましたか。

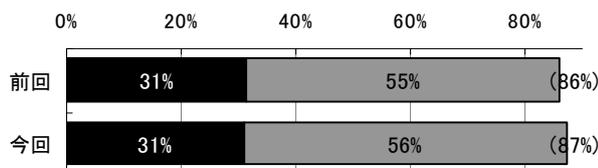


学校の教育目標として掲げてきた「共生への資質獲

得」の一部をなすものであり、特に注力して取り組んできました。前回も高い評価を頂戴しましたが、今回はそれを更に上回る結果です。

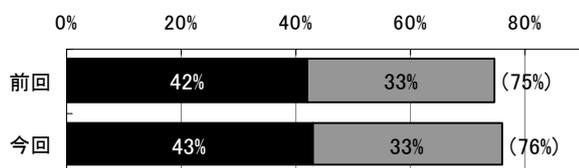
入学から卒業まで、時間をかけてゆっくりと獲得していく資質です。学年と時期を追って着実に肯定評価が高まり、最終学年である3年生では87%と高い数値になっています。生徒自身の成長に加え、長期的な視点に立った教育が成果を得たことが示唆されます。

**Q 登校・下校時指導や緊急時メール連絡網など、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分だと思われますか。**



前回に引き続き、高い評価を頂戴しました。学校が取り組んできたことが一定の成果を得ているようです。「どちらかといえば」という但し書き付きの回答には、学校が想定している危険の様態と保護者の皆様が認識されている危険との乖離が隠れていると考えます。社会や地域の変化に対して関心を高め、新たに生まれてくる危険にも遅滞なき対応をとる所存です。

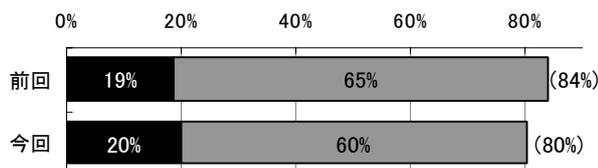
**Q 進路希望や将来の職業、あるいは学校での様子などについて、家庭で話をすることはありますか。**



学校全体での変化の程度は比較的小さいものの、進路選択を眼前の課題とした3年生を中心に、肯定的回答が増える結果となりました。

将来の職業選択などについて家庭での会話が1年生、2年生でも活性化するよう、時期に応じた好適な話題の提供に取り組むとともに、学校での様子を知っていただく機会の整備を積極的に進めていきます。

**Q 様々な進路希望に対応できるよう、教育課程(選択科目など)や教材は適切に整備されていると思われますか。**



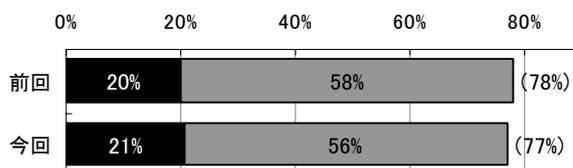
前回に比べて、回答留保を含む全回答の中での肯定割合は、1年生で7ポイント、2年生で5ポイント、3

年生で5ポイント増加<sup>1</sup>しています。年度内であるため教育課程の変更・修正は行っておりませんが、科目選択指導などの充実により、教育課程の設計に込めた意図が理解されるようになったものと推定します。

前回の調査結果を受けて教育課程のあり方については校内で議論を重ねて来ましたが、今後もまた、前回の報告でお約束したとおり、調査に基づく進路希望の実態や時期を経てその変化を精査し、生徒・保護者が希望する進路と現状の教育課程で実現し得る進路との差分を明らかにして、その解消に努めてまいります。

<sup>2</sup> グラフからは肯定的評価がやや減ったように見えますが、前回の調査で「回答留保」から肯定/否定の両方に回答が分散した結果です。

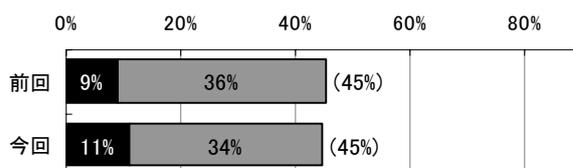
**Q 学校からの連絡文書や懇談会・授業公開などを通じて学校の様子は十分に伺えますか。**



全体では肯定評価の割合が4分の3を超えた水準を維持し、前回と同じ水準です。一定の評価は頂戴しているようですが、但し書き付きの肯定が多くを占めたままであり、改善の余地は大いに残されています。

クラス懇談会ではテーマをより明確にするなど、今まで以上に興味を持って学校公開の機会に保護者の方のご参加をいただけるよう、行事関係の企画について整備を進めることで改善を図る予定です。

**Q 保護者の目から見てお子様は、自分が立てた計画に沿って学習を進められるようになりましたか。**



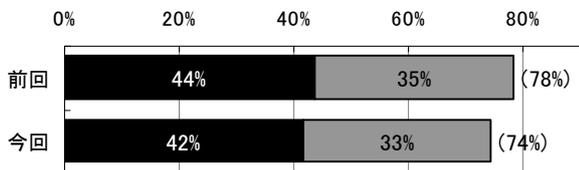
学校が掲げる教育目標の一つである「自学自習」に関する部分であり、目標達成にはいまだ遠い状態と受け止めています。

積極的な肯定が僅かながら増えたこと、3年生については前回比較で8ポイントの肯定増加があったことから判断して、学校としての取り組みは一定の成果を挙げつつあるようですが、個々の指導の妥当性やその履行徹底など、点検すべき事柄が多くありそうです。

現在、学校では春休みに向けて、『生徒による学習計画作り』の指導のあり方を研究しています。より具体的に且つ効果的な方法を確立し、早期からの自学確立

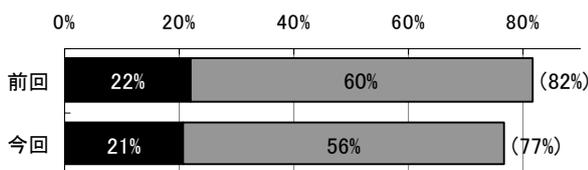
を促していきます。長期休業により学校からの目が届かない部分については、保護者の皆様のご協力が必要となる場合も想定されますので宜しくお願いします。

**Q 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われるか。**



前回の調査で回答留保が大半を占めた1年生で、厳しい評価が増えたことを受け、前回を下回る結果となりました。施設利用状況や参加率などから部活動運営に問題点はないか再度確認を行うとともに、前回お約束した「学校ホームページなどを通じて各クラブの活動状況をしっかりとお伝えする」という部分についても改めて徹底を図る所存です。

**Q 学校は、保護者や地域の要望・意見に対して誠実に対応してくれますか。**

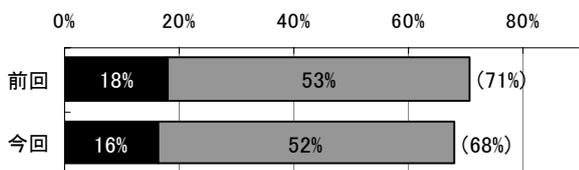


前回と比較して5ポイントほど肯定的評価が減少しました。誠実対応への意識は強く持ち続けたつもりでしたが、結果的には1年生と2年生では肯定寄りに評価が転じながらも、遺憾ながら3年生で否定的な回答が増えてしまいました。

進路決定に際して、生徒や保護者からの要望が多様化しますので、学校としては年度前半以上に十分な対応を心掛けたつもりでしたが、応えきれない部分が残ってしまったと受け止めております。

次期に向けて、同じ轍を踏まないよう、今期寄せられたご要望の内容やその根底にある事情を、収集・整理することから対応法について研究を行います。

**Q 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われるか。**

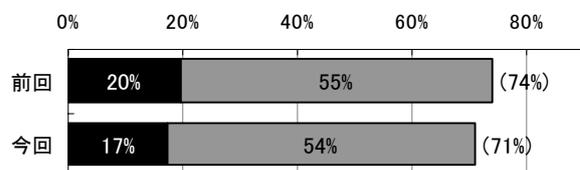


1年生と3年生では、それぞれ肯定的回答が5ポイント、7ポイント増加しましたが、2年生で否定的な評

価が増えました。この結果、全体では前回より厳しい評価をいただくことになりました。一般に『中だるみ』といわれる2年生に対する指導のあり方を確立しなければなりません。来年度に向けた最優先課題として研究と研修を加速します。

学校評価と時期を同じく実施した授業評価アンケートの結果分析報告を機会として、「指導機会毎の主眼周知」と「出口学力像の明確な認識」とを主軸にした授業改善の基本方針を教員間で共有しました。今後、教科ごとの教員研修も強化し、より高い評価を得られるよう取り組んでまいります。

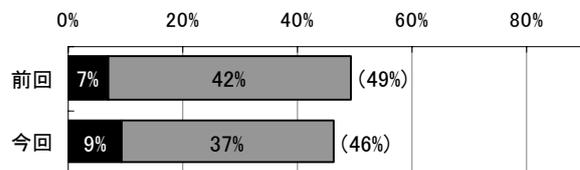
**Q 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。**



1年生で否定的な回答が大きく増えた結果、全体でも前回の評価を下回りました。新学期に実施した『オリエンテーション学習合宿』の評価が高かった分、これと同等以上に明確な教育目標を見出せるような学校行事が行われなかったことに原因があると考えます。

生徒・保護者の皆様の声に耳を傾けることから行事の改善に着手する予定です。また、現在行っている行事についても、教育意図の明確な事前説明を行い、生徒がより積極的・主体的に行事に関わることができるように働きかけるのも重要な課題であると考えます。

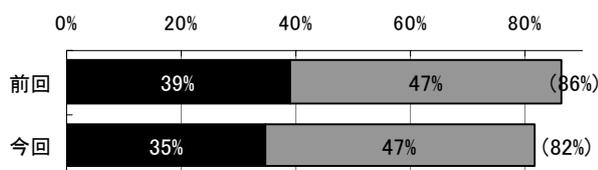
**Q 育友会(大阪高校保護者と教職員の会)の活動に関心をお持ちですか。**



前回と比較して「たいへんに関心があり、内容も分かっている」(■)の割合は僅かながら増加し、「関心はあるが、内容についてはよく分からないことが多い」(■)が5ポイント減りました。両者を合わせて解釈すると、『活動内容の周知は進んだが、興味をお持ちいただくには至らなかった』という結果です。

生徒を取り巻く環境をより好適なものとしていくには、学校と家庭とのスクラムこそが大切であると考えます。育友会活動が、保護者と教職員のコミュニケーションを密にするきっかけとして機能するためのアイデアを皆様からお寄せいただければ幸いです。

Q お子様を大阪高校に入学させてよかった(知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい)と思われますか。

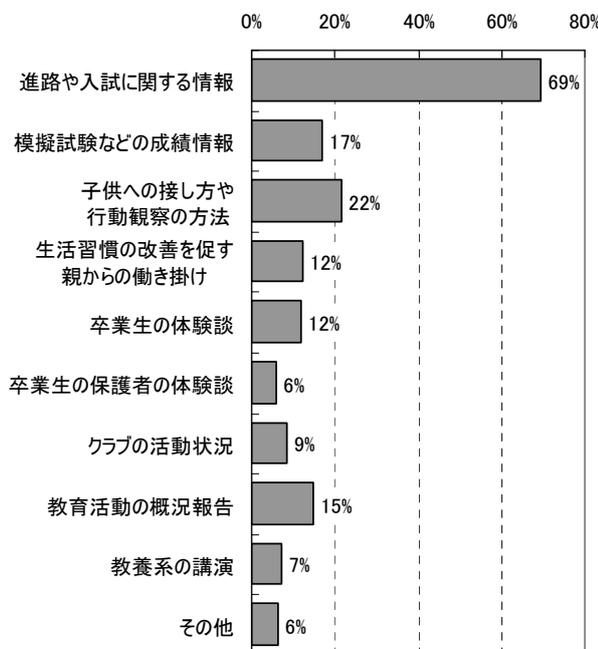


肯定的評価が80%を超えており良好な結果(3年生だけを抽出すると肯定は86%)ではありますが、前回に較べるとやや低下しました。より良い学校作りに向けて保護者の皆様の期待値が大きくなったのに対して学校の変化が遅れを取ったものと受け止め、学校改革と教育改善を一層加速させていきます。

他の質問への回答と照らし合わせてみたところ、「未来を切り開く力(将来と結びつけた行動選択)」「自律学習の姿勢(自分で立てた計画で勉強)」の2点において肯定的な評価を得た場合は、この質問(学校を選択した結果への満足の度合い)に対してもほぼすべてが肯定的回答を頂戴しています。学校教育目標の達成こそが、学校を選択したことに対する満足となって現れるという認識を新たにいたしました。

総合評価であり、直接的に評価を改善することはできません。教育活動のひとつひとつを充実させていく以外に途なしと捉え、日々の教育改善を進めます。

Q 保護者会やクラス懇談会で取り上げてほしいこと、充実を望むことはどれですか。



回答は「進路や入試に関する情報」に集中しました。進路選択やその実現に向けての関心の高さを示すものです。現状において情報提供が不足していたことも示唆されます。今後、進路通信などの媒体強化とあわせ、

クラス懇談会などでも積極的に取り上げていくことをお約束いたします。

Q お子様は意欲や目標を持って学校に通う姿勢を示していますか。その対象を2つ選んでご回答ください。

最も多くの回答が集まったのは、「クラスでの友人とのふれあい」(59%)であり、好ましい人間関係が築かれていることが窺えます。次には「クラブ活動」(33%)「進路目標実現への接近」(27%)と続きました。

Q 今後、子どもに獲得させたい資質はどれですか。

「将来を切り開いていく力」と「自主自立の姿勢」とが最も回答を集めました。進路決定までのプロセスを通じて、生徒がこの「力」と「姿勢」を獲得できるようになることが、進路指導の本分であると考えます。選択の結果やその実現は言うまでもなく、選択に至る過程での経験そのものが生徒にとっての学びとなるような指導を心掛けていこうと思います。

Q 今後、学校にさらなる充実を求めたいのは何ですか。

前回に引き続き、「進路指導や就職支援」(74%)と「学習指導や学力向上」(68%)の2つが飛び抜けて高い選択率となりました。適性や資質に合致した進路を見出し、その実現に向けた支援を行うことこそが学校の使命であるとの認識を新たにしました。

Q 本校の特徴としてどれが当てはまると思われますか。

前回と順位はほとんど変わりません。「子どもたちがいきいきと学習や部活に励んでいる学校」(41%)、「ひとりひとりを大切にしてくれる学校」(35%)が上位に置かれます。一方、「しつけの厳しい学校」(27%)と僅かながら増加しています。規律のもとで、のびのびと活動に専心できる環境の創造・維持に、これからも全校を挙げて注力していきます。

一方、「保護者と教員の連携がしっかり」や「生徒の自立心を養う」はそれぞれ10%前後の回答にとどまり、イメージから程遠いようです。前者は学校として強化したい部分であり、後者は教育目標の一つです。今後の取り組みをご期待いただきたく存じます。

**大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。**

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。  
 TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719  
 保護者による学校評価アンケート担当: 副校長 岩本信久